



平成 25 年 11 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社 新 日 本 科 学
代表者名 代表取締役社長 永田 良一
(コード番号：2395 東証第一部)
問 合 せ 先 代表取締役副社長 関 利彦
(TEL：03-5565-6216)

長崎大学との共同研究事業に関するお知らせ

－公的研究助成事業の採択について－

当社と国立大学法人長崎大学（長崎県長崎市）が、共同で応募した創薬研究開発プロジェクト『革新的脳卒中治療ペプチド製剤の創出』につき、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）（ハイリスク挑戦タイプ）において、採択されましたのでお知らせいたします。

なお当社と長崎大学の共同研究においては、JST の平成 23 年度の A-STEP（『革新的な脳梗塞治療薬のプロトタイプ創出』、シーズ顕在化タイプ、約 8 百万円）に続く採択となります。また平成 25 年 3 月 21 日に開示させていただきましたように、当社と長崎大学の間では共同研究契約（『脳保護作用を有する新規活性ペプチドの脳梗塞治療薬としての開発』）を締結してペプチド製剤の構造最適化等を実施しており、今回の JST 助成事業の採択により、最適化されたペプチド製剤の安定性試験や薬効試験を行うことで、この共同研究をさらに加速いたします。

1. 課題名： 『革新的脳卒中治療ペプチド製剤の創出』

研究責任者： 長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科 植田弘師 教授

助成金額： 約 6 千万円

助成期間： 交付決定日～平成 28 年 5 月 31 日

研究概要： 脳卒中は、先進諸国の死因の上位に位置する重要な疾患であり、その後遺症である運動障害は深刻で寝たきりの主因となっています。後遺症を回避するには、急性期治療が重要であると言われていたますが、脳卒中の第一選択薬である血栓溶解剤「t-PA (tissue plasminogen activator)」は、その副作用である出血リスク等のために、脳卒中発症後 4.5 時間以内の使用に限定されるという時間的な制限があることから、実際にはすべての脳卒中患者の 2～3%しか適用できていないという深刻な課題を抱えています。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の植田弘師教授（分子薬理学）が発見した強力な脳保護作用を有する活性ペプチドは、当社との共同研究における非臨床試験の結果から、単独投与における運動機能障害等の改善効果だけでなく、「t-PA」との併用投与において、「t-PA」の副作用である運動障害の悪化と脳出血を抑制する効果があります。そこで当該ペプチドを「t-PA」と併用することにより、「t-PA」の主作用である血栓溶解作用を活かしつつ、「t-PA」の副作用である出血リスク等を当該ペプチドで抑制する、という新しい治療コンセプトに基づき、脳卒中治療が現在抱える臨床的な課題の解決を期待しています。

今回の A-STEP の採択を受けて、当該ペプチドの詳細な作用機序の解明を進めると共に、臨床応用に必要なペプチド製剤の安定性試験および薬効試験を実施します。これにより用法用量を最適化した上で薬効を証明し、臨床処方の重要な根拠となるデータを取得していきます。

今後、上記共同研究事業につき、産業化に向けて研究開発段階をステージアップさせると共に、知的財産を創出・強化し、製薬企業へのライセンス導出を目指します。

なお、本件が当社グループの今期業績に及ぼす影響は現段階では軽微であります。

以 上